

蘇れ！ 雑木林

ドングリの森づくり by カニ山の会

深大寺自然広場は古多摩川が武蔵野台地を削ってできた武蔵村山から大田区まで続く国分寺崖線と言われる崖の一部です。今も残されている貴重な雑木林のつながりを次の世代へと守り育てていくため、現在草むらになっていくキャンプ場の隣にドングリの森を蘇らせます。



雑木林やドングリの話を聞いてからドングリ拾いへ

11月3日 こどもたちが自分で作った竹ポットにドングリを蒔く作業をしました。また、調布産野菜たつぶりの焼きそばとトン汁、マシユマロ焼きを楽しみました。親子が持ち帰った竹ポットのドングリ苗の成長を待つて植樹を行う予定です。



竹きり電車で順番を待つ。



切った竹の底に穴を開ける。水はけ用の砂利を入れてから土を入れる。ドングリを蒔く。



ドングリを水につけ、浮いたものは除く。左からスダジイ、マテバシイ、シラカシ。今年はコナラ、クヌギのドングリが少なく、常緑樹のドングリが殆どになってしまった。この後スダジイは香ばしく炒って試食した。

雑木林の昔とこれから
雑木とは、建物をつくる時よく使うスギ・ヒノキ以外の色々な木をさすことばです。この雑木からなる林を雑木林と言います。日本の国では南北で種類はことなりますが、この雑木の多くが「ドングリの木」なのです。これらの林は萌芽更新など様々な手入れにより落葉の堆肥や薪や炭、そ

して木の実やキノコ、また道具の材料等数百年にわたり多くの恵みをもたらすと共に豊かな自然（生態系）と美しい景観をも与えてくれました。今では、多くが住宅地にかわり、自然や緑の景観が貧しくなったり荒れた林が多く見られるようになりまし。また今は公園の木は切らない事になってるため、20メー

トルをこえる高木が増え、低木や下草が育ちにくい林になってしまっています。樹木は成長期のほうが炭酸ガスを吸収します。萌芽更新の雑木林は地球にもやさしい林なのです。これからは昔のお百姓の暮らしや仕事の知恵にも学びながら貴重な雑木林を残したいですね。あなたもドングリの森作りに参加しませんか？



鳥瞰図：小林冬樹

この活動は「カニ山の会」と「環境市民会議」のコラボですめています。

田んぼの学校 収穫

10.8 稲刈りとはざ掛け

すずめの被害対策を十分に行ったおかげで被害がほとんどなく一安心。通常2〜3週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶん軽くなります。



10.30 脱穀

組合所有の脱穀機を使用。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わりました。当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、明治43年の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀した籾の状態は種と同じで、長期保存する場合は籾の状態で行います。



11.6 籾摺り

江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。田んぼの学校で使っている籾摺り機は近所の農家から譲り受けたものですが、傷みが激しく、やっと作動しているような状況です。



11.13 精米

一昨年はスズメの被害で80kg(玄米)しかありませんでしたが、今年は121kg収穫できました。当会が米作りを始めて20年目になりますが、その間ずっと利用させていただいた共同小屋(精米機や製粉機、半鐘などもある)が今年限りで道路整備のために取り壊されることになりました。存続については結論が出ていないようですが、当会としては、地域のコミュニティを活性化させる意味で別の場所での存続を希望しています。

田んぼの学校校長 尾辻

霜月も半ばを過ぎる頃になると、急に寒さが増し、季節を彩った野の花たちも冬枯れの季節を迎える。小春日和に誘われ、多摩川の河川敷を訪ねると、葉を赤く染めたイヌタデや水辺を彩るヤナギタデ、オオイヌタデ、ミゾソバなどのタデ科の植物たちが目に止まる。岸辺を埋め尽くしたミゾソバの群落は、季節の風物詩ともなっており、過ぎ去る季節を美しく演出している。

そんなタデたちの中で、少し異色の存在がシャクチリソバだ。あまり聞き慣れない名前だが、ヒマラヤから中国南西部を原産とするソバの仲間、太い塊茎を持ち、中国では金蕎麦(きんきょうばく)とよんで解毒剤などとして使用するほか、ソバ粉を採るために栽培されている地域もある。

血管の補強剤ルチンを抽出する薬用植物として導入され、薬草園などで栽培されていたものが1990年代に逸脱し、最近各地で野生化した姿を見かけ、多摩川や野川でも各所に群落を作っている。大きな葉を茂らせるので、他の植物が日照不足になって生育できなくなるのか、純群落を作っていることが多く、年々勢力圏を拡げている。その原因の一説に根や地下茎から種子の発芽を抑制するアレロパシー物質を分泌するため、他の植物の侵入が困難になり、その場を占領してしまうというが、この説については確証を得ていない。

和名のシャクチリソバは、本草綱目という本の中の赤地利(しゃくちり)という漢名を植物学者の牧野富太郎博士が1933年にそのまま名付けたもの。

花の履歴書⑫

戸部英貞(絵・文)

シャクチリソバ
(赤地利蕎麦) タデ科



Fagopyrum cymosum Meisn

一般に栽培されているソバよりも大きな実だが、種子の数も少なく、食べたことはないが、ニガソバの別名から察すると、あまり美味ではなさそうだ。日本では昭和初期、

調布らしい本当の自然を 子供たちに残したい



文 横山讓二

平成6年の4月から冬を除いて、毎月「調布の花めぐり」という自然案内を主催していて、この11月には入間町の国分寺崖線の緑地を市民40人と訪ねた。NTTの研修センターとフェンス一つで隔てられた所だけあって、自然が豊かでクヌギ、コナラ、ミズキ、エゴノキ、イヌザクラ等の高木林が有り、林の下三分の一には草が生い茂り、その中にタイアザミやシラヤマギクの花も見られた。しかし右側の三分の一程は市で下刈りしたのでしょいか、見るべき花は全く無かった。でも秋にこのような手入れをしておけば来春にヒトリシズカ、キンラン、ナルコユリ、タチツボスミレ、ミツバツチグサ等々の

可愛い花がにぎやかに顔を見せてくれることでしょう。楽しみは来春に残すとして、残る三分の一を見ると昨年下刈りをしてくださったのでしょうか、程よく草木が茂り、おかげで調布では見ることのできなくなったアキノキリンソウの花が咲いていたし、サルトリイバラの赤い実や、ゴンズイの赤い実も見られた。

調布の自然は昔からそこに住んでいた人々が炭や薪に利用したり、屋根にするためススキを刈ったり、肥料にするため落ち葉を掻いたりして適度に手入れをしてきました。その結果多様な自然が残されたのです。シバザクラやコスモスやヒマワリを一面に植えて観光資源にすることもわかりますが、



若葉緑地の会

10月9日(日) 参加者13名

小池先生より緑地の保全について指導を受ける。

新たに増えた緑地内のソメイヨシノは天狗巢病に罹っているので、近隣の方々の意見を集約したうえで、伐採したほうがよいとのアドバイスを受けました。また、大きな常緑樹が多いので、伐採したほうがよいとのことでした。

第3緑地内は雨が多いせいか、キノコがよきよき生えていました。立派なヒラタケも発見！

10月20日(木) 参加者2名

小池先生より、栗のイガは危ないので、落ち葉とは別に収集することのアドバイス

を受け、早々にイガ拾いを行った。その他に伐採木を整理する。

11月13日(日) 参加者11名

2班に分かれ、富士見スポットの枝切り・間伐とコナラの実生苗の移植を行う。富士見スポットの整備はなかなか難しいもので、さらに工夫が必要です。

また、移植したコナラの実生苗の生育状況を観察していきます。(住田)



実生のコナラ



ヒラタケ

若葉の森3・1会

10月2日(日) 曇り 参加者8名

台風15号の被害の後始末を9月23日の臨時作業に引き続き行いました。

倒木や折れた大枝を切断して東西に集積し、通り道を確保しました。また、折れた枝を活用してコンポスト柵や下屋敷坂側の小規模の土留め作業を行いました。倒木の幹や青葉の茂った小枝は片付けきれないほどの量で、台風威力に驚きました。

11月6日(金) 曇り 参加者8名

台風の後始末で堆積した枝の整理、特に桜の木の前空間を確保したので来春が楽しみです。彼岸花や藤の幼木を守るための囲いや、下屋敷坂側の入口に簡単な階段をつくり、通り道の落ち葉かきも行いました。

枯木や台風による倒木や折れた大枝が調布



空が見える



若葉の森で歌う

市により処分され、空に抜ける空間が何ヶ所か生まれ、太陽の陽ざしが地面に届き、緑地全体が明るくなりました。あらたな植物の成育が楽しみです。

若葉の森で歌いましょう(第4回)

11月13日(日) 第一緑地で「若葉の森で歌う会」の催しがあり、参加者30名の歌声やフルート、ギター、アイリッシュハープの音色が、絵画も展示された静かな森に響き渡りました。(K)

入間・樹林の会

10月16日(日) 参加者6名

方形枠調査をしました。27度を超える暑さと湿度67%のため、保全活動はせず今後の伐採木の検討を行いました。9月にスズメバチがいたこともあり、林内に3ヶ所ある枝木の山は寒い時期に片づけをすることに。その他、落ち葉溜めの整備、竹の伐採など、人手が必要です。

花は、ミズヒキ、キンミズヒキ、トネアザミ、ナキリスゲ、ヤブタバコ、実はヤブミヨウガ、センリョウ、カキ、ハエドクソウ、ヤブラン、ムラサキシキブ、チヂミザサ。昆虫はまだアブラゼミが鳴き、ジョロウグモ、カメムシの一種、シヨウリョウバッタがいました。(安部)



トネアザミ

11月20日(土) 参加者5名

いつもの準備運動の後、樹林地に入りましたが、大雨が上がり気温がグングン上昇したせいか季節外れの蚊の猛攻にあい悪戦苦闘？ まずは樹林地の中を軽く一周し、ゴミ集めを中心とした作業を行うことにしました。①重たいレジ袋は家庭で使用済みの砂・土、その他不燃ごみの入った袋が多いようです。②背丈ほどのシュロを1本伐倒処理。③通路に落ちた小枝や葉っぱの取り除き。

花はツワブキの黄色が良く目立ち、頭上にはツバキの花が逆光に透けて映えています。実はヤブラン・センリョウ・マンリョウ・ヤブタバコ・ヤブミヨウガと数シリウズが幅を利かせていました。鳥は山から下りてきたのかヒヨドリ・メジロが盛んに鳴いていました。(里)

力二山の会

10月8日(土) 参加者10名

台風15号により倒木したノオス コナラを搬出。その他緑と公園課が処理した樹木を利用してきそうな物と処分する物に選別。枯れ枝の山を前に達成感があったが、体力のいる作業だった。

また散策路脇の材木が腐ってきたこと、大きくなってきた笹、「作業中」を示す看板作りなど、次回以降もやるべきことが多い。29日(土)には「ドングリの森作り」のポット用孟宗竹を神代農場の好意で調達することになった。(一面参照)

11月12日(日) 参加者5名

先月続き、台風での倒木処理。細い枝は粗朶に活用することにし、葉っぱや小枝を落として適当な長さにした。



玉切りされた幹は、一輪車を用いてキャンプ場北側緑地に移動。キャンプ場のイス等に利用したい。

根元から伐採されていたエゴノキは、力二山全体でも衰退傾向にあり、保全すべき樹種であるにもかかわらず、考慮されずに伐採されていたのは残念。粗々の整備計画案を作って、市と協議したい。(活動報告より)

秋のクラフト教室 in 多摩川

11月13日

もちろん
多摩川清掃も
頑張りました。



今

年もクズなどのツル植物
を使ってクラフト教室を
行いました。今回は新潟育ちの
講師の方に教えていただきス
キのフクロウやミノムシ型の可
愛い一輪挿しも製作。

愛い一輪挿しも製作。

早朝から集まった十数人はま
ず多摩川クリーン作戦に参加。
ワンドのあたりを清掃した後、
快晴の多摩川土手にテントを張
り、日陰の下で楽しく取り組み
ました。環境市民会議スタッフ
も昨年は自己流で作ったカゴで
すが、今回はコツを教わりなが
ら作ったので出来栄は一段と
グレードアップ?これで河原な
どにはびこるクズも退治できれ
ば一挙両得。



そぞろ歩き

11月26日

昌翁寺〜仙川崖線〜白百合女子大構内〜八幡神社

15人ほどの参加者と緑ヶ
丘方面の社寺と緑地のよう
すを観て歩きました。仙川
沿い南側の崖線にある気持
ちの良い散歩道を通り(写
真)日頃は入りにくい白百
合女子大の構内の緑地も観
察。八幡神社で解散後、数
人で「緑ヶ丘みんなの森」
の名がついた雑木林まで歩
きました。

(環境モニターサポーター)

ちょうふの自然 みつけた!

メーリングリストより

10/8 1日に「カニ山に
の可愛い花が咲いているのは
マヤランが出ていました」の
嬉しいことです。(K)

10/14 晴天の中、多摩川で
植物観察会をしました。参加
者と共に52種類確認しまし
た。まず目に飛び込んでくる
のはまるで寄せる波のような
アレチウリの波でした。(G)

11/12 自然広場東樹林で可
愛い木の実の
写真が撮れま
した。幹に少
しばかり翼が
ついているので
ニシキギかと思いましたが、
どうもコマユミのようです。
(K)



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動
を行っています。参加希望者は直接
入間地域センターへ。

●12/18(日) 9:30〜12:00
●1/15(日) 9:30〜12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動
を行っています。野草園横直接集合
●12/10(土) 10:00〜12:00
●1/14(土) 10:00〜12:00
作業ははじめの山開きを行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉
町3丁目第3緑地で保全活動を行っ
ています。参加希望者は直接現地へ。
●12/11(日)・22(木) 9:30〜12:00
●1/8(日)・19(木) 9:30〜12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第
1・2緑地で保全活動を行っています。
参加希望者は直接現地へ。
●12/4(日) 9:30〜12:00
●1月の活動は
お休みです。

若葉町第2 樹林の
サネカズラ



◆先の4グループとも活動への参
加、その他は緑と公園課へお問合せ
下さい。042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は 2009.3.15 に設立された市民組織「ちょう
ふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、
環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載してい
ます。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆「自然だより」は調布市環境部(市役所8F)、市図書館 10 館、
地域福祉センター、あくろす 2・3F、たづくり 11Fみんなの広場、
郷土博物館、実篤記念館、自然情報館のほか、みさと屋さん、な
どに置いてあります。応援カンパ・置き場所を募集中です。

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org ※自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆